

この PDF は以下の書籍の I-2「ムンダ語の音韻体系と表記」(pp.10-16)を抜粋したものです。長田俊樹&Madhu Perti. 2022. 『ムンダ語 夏期言語研修ムンダ語教本』。府中: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

## 2 ムンダ語の音韻体系と表記

ムンダ語には、固有の文字がありません。そこで現在では、ヒンディー語をあらわすデーヴァナーガリー文字を使用しています。しかし、デーヴァナーガリー文字でムンダ語をどのように書き表すのかという正書法も確立していません。したがって、本言語研修ではデーヴァナーガリー表記は使いません。ただし、語彙集にはデーヴァナーガリー表記によるムンダ語をのせておきました。本言語研修でのムンダ語表記は、基本的には、インド諸言語を転写するさいに用いられている転写表記（たとえば、反舌音を *t̪, d̪, r̪* と表記）を使用します。それでも表記できない音は、IPA（国際音声字母）を使用します。

では、ムンダ語の音韻体系と本研修で使用する表記をみていきましょう。

### 母音：

1. *i* 高・前舌・非円唇母音。  
*ir* 「稲を刈る」  
*ili* 「米の酒」  
*birid* 「立ち上がる」
2. *e* 中低・前舌・非円唇母音。  
*en* 「それ」  
*ere* 「前兆」  
*berel* 「生の」
3. *a* 低・中舌・非円唇母音。  
*am* 「あなた：二人称単数」  
*ara* 「娘婿」  
*marai* 「大きい」
4. *o* 中低・後舌・円唇母音。  
*ol* 「書く」  
*oko* 「どれ」  
*molon* 「額」
5. *u* 高・後舌・円唇母音。  
*ur* 「掘る」  
*uku* 「隠す」  
*bului* 「塩」

### 長母音：

長母音はその現れ方が規則的で、予測可能です。また、短母音と長母音の対立によって、意

味が変わることはありません。つまり、弁別的ではありません。「弁別的」とは言語学用語で、たとえば日本語の「ラ行音」は *r/l* の区別がありませんが、日本語では *r* と *l* の区別が弁別的ではないと言う表現をします。ただし、この教本や読本では、表記上、長母音は母音連続として示しておきます。それは、より発音に近い表記をとったほうが、初学者は混乱しないだろうという配慮と、教育を受けた二言語併用者を中心に、長短の区別が弁別的に意識されはじめているという理由からです。長母音があらわれる環境としては、数は多くないのですが、単一開音節語があります。また、歴史的にさかのぼると、もとは二音節語でしたが、母音間の子音 *-h-* が落ちたために母音連続が生じたケースの二つがあります。それらの例をみておきましょう。

*joo* 「実。果実」

*baa* < *baha* (ムンダ語ナグリ方言、サンタル語) 「花」

*iil* < *ihil* (ムンダ語ナグリ方言、サンタル語) 「羽毛」

### 鼻母音:

鼻母音も現れ方が規則的で、予測可能であり、弁別的ではありません。本言語研修テキストでは鼻母音を表記しませんが、とくに鼻母音であることを強調するさいには、*ā, ē, ī, ō, ū* のように母音の上に鼻音記号をつけて表記します。なお、鼻母音があらわれる環境はつぎのとおりです。

1. 単一開音節語 語頭子音が鼻音であることが多いが、それ以外でもおこる場合があります。

*mūū* 「鼻」

*nūū* 「飲む」

*jūū* 「臭う」

2. *ŋ* の前後の母音 *ŋ* は語中にしかあらわれません。

*cēŋē* 「鳥」

*mōŋē* 「5」

3. 母音連続 *oe, oa, ua* 借用語に多い。

*kōē* 「乞食」

*kōāsi* 「霧」(ヒンディー語 कुहासा *kuhāsā*)

*kūā* 「井戸」(ヒンディー語 कुआँ *kuā*)

### 子音:

#### 閉鎖音

1. *p* 無声・両唇閉鎖音。

*puṛu?* 「葉器」

*ipil* 「星」

2. *b* 有声・両唇閉鎖音。

*baa* 「花」

*bul* 「酔う」

*ibil* 「厚い」

*ub* 「髪」

*udub* 「教える」

3. *t* 無声・歯閉鎖音。

*tii* 「手」

*tul* 「手で持ち上げる」

*hatañ* 「脳」

4. *d* 有声・歯閉鎖音。

*doo* 「(物を)置く。結婚する」

*dul* 「注ぐ」

*dondo* 「持ち上げる」

*ud* 「茸」

*hambud* 「抱く」

5. *ʈ* 無声・反舌閉鎖音。

*toʔ* 「(的などに)当たる。ぶつかる。」

*ʈote* 「弓を射る」

*haʈaʔ* 「箕(稲籾を選り分ける道具)」

6. *ɖ* 有声・反舌閉鎖音。

*ɖaʈa* 「歯」

*ɖoŋɖo* 「馬鹿」

7. *c* 無声・硬口蓋破擦音。

*coʔ* 「キスをする」

*raca* 「庭」

8. *j* 有声・硬口蓋破擦音。

*joʔ* 「掃除をする」

*raja* 「王様」

9. *k* 無声・軟口蓋閉鎖音。

*koʔ* 「白鷺」

*haka* 「吊す」

10. *g* 有声・軟口蓋閉鎖音。

*goʔ* 「背負う」

*haga* 「兄弟」

11. *ʔ* 声門閉鎖音。

*daʔ* 「水」

*raca*? 「引っ張る」

### 摩擦音

1. *s* 無声・歯摩擦音。  
*sibil* 「おいしい」  
*hasa* 「土」
2. *h* 声門・摩擦音。  
*had* 「切る」  
*huṛin* 「小さい」

### 鼻音

1. *m* 両唇鼻音。  
*muu* 「鼻」  
*gama* 「雨」  
*duṛum* 「眠る」
2. *n* 歯鼻音。  
*nuu* 「飲む」  
*mone* 「欲する」  
*an* 「それ」
3. *ɲ* 反舌鼻音。  
*moɲe* 「5」  
*ceɲe* 「鳥」
4. *ɲ̄* 硬口蓋鼻音。  
*aɲ̄* 「わたし」
5. *ɲ̄* 軟口蓋鼻音。  
*aɲ̄* 「夜が明ける」  
*buluɲ̄* 「塩」

### 流音

1. *r* 歯茎卷舌音。  
*re*? 「強奪する」  
*buru* 「山」  
*bir* 「森」
2. *l* 歯茎側音。  
*le*? 「舌」

*bulu* 「太股」

*bil* 「敷く」

3. *r* 反舌弾き音。

*hoꝛo* 「人間」

半母音

1. *w* 両唇半母音。

*kiwa* 「顎」

2. *y* 硬口蓋半母音。

*hoyo* 「風」

三種の流音について

日本人にとって、難しいのは流音が三種あることです。*r*は巻き舌で発音されることも多いので、わかりやすいかもしれません。一番難しいのは語中での区別です。以下の発音を聞いて、その違いに慣れてください。

(1)

*hoꝛo* 「人間」

*horo* 「亀」

*holoꝛi* 「小麦粉」

(2)

*tala* 「間」

*tara* 「半分」

*taꝛa* 「先に・・・する」

いわゆる抑止音 (checked consonants) について

ムンダ語の音声的特徴として、いつも取りあげられるのが抑止音 (checked consonants) です。閉鎖音のうち、*b, d* は語末において声門閉鎖音化して、破裂音がきこえません。つまり、調音点はそのままで、息をとめると、この抑止音になります。ただし、息を止めたら、かならず息をはかないといけません、そのときには鼻から息をだすように発音します。また、語末には *g* はたちません。すべて、声門閉鎖音 [ʔ] としてあらわれます。したがって、音韻論的立場からいえば、音素 /g/ をたて、語末は [ʔ] で実現されると解釈することができますが、初学者の無用の混乱を防ぐためと、借用語のなかでは語末の /g/ がそのまま [g] と発音されるケースもあるので、声門閉鎖音はすべて ʔ で表記します。

もう一点、サンタル語とムンダ語はお互いに通じ合うほど近い言語です。そのサンタル語にも同様の現象が見られます。つまり、語末の閉鎖音の破裂がありません。サンタル語には、ボディングというノルウェーの牧師さんが編纂した5巻本の辞書があります。その表記によると、*p', t', c', k'* と無声閉鎖音で表されています。このうち、サンタル語の *p', t'* はムンダ語の *b, d* に対応し、

*k'* は *'* に対応します。また、サンタル語の *c'* はムンダ語では *-i/e'* に対応します。その対応を示すと以下の通り。

意味	ムンダ語	サンタル語
髪	<i>ub</i>	<i>up'</i>
失う	<i>ad</i>	<i>at'</i>
水	<i>da'</i>	<i>dak'</i>

このサンタル語の表記から、ムンダ語の抑止音でも語末の無声閉鎖音 *p, t* で表記することも可能です。というのも、語末には有声・無声の対立がないからです。しかし、後ろに母音がつくと有声で現れること、ムンダ語の先行研究では有声閉鎖音を使用していることなどを考慮して、*b, d* で表記しています。

それでは、例をみながら、発音の練習をしましょう。

1. 語末の閉鎖音 *b*

*ub* 「髪」  
*udub* 「教える」  
*cab* 「口を開ける」  
*rakab* 「上る」

2. 語末の閉鎖音 *d*

*ud* 「茸」  
*hambud* 「抱く」  
*bid* 「たてる」  
*birid* 「たつ」。

3. 語末の声門閉鎖音 *'*

*bu'* 「吠える」  
*be'* 「吐く」  
*poe'* 「口をすすぐ」  
*busu'* 「藁」  
*tukui'* 「縫う」

さいごに、声門閉鎖音のあるなしの違いについてとりあげます。ここでは、日本人には聞きづらい語末の声門閉鎖音があるかないかについて、対立する単語をみながら、発音の練習をしましょう。一音節の場合と二音節の場合で、声門閉鎖のあらわれ方がことなる点に、注意しましょう。

1. 一音節

- (A-i) *joo* 「果実」
- (A-ii) *jo'* 「掃く」
- (B-i) *maa* 「去年」
- (B-ii) *ma'* 「切る」
- (C-i) *daa* 「根茎」
- (C-ii) *da'* 「水」

## 2. 二音節

- (A-i) *seta* 「犬」
- (A-ii) *seta'* 「朝」
- (B-i) *uri* 「皮をむく」
- (B-ii) *uri'* 「牛」
- (C-i) *uyu* 「掛ける」
- (C-ii) *uyu'* 「落ちる」